

牧口常三郎出席の 『教育週報』『教育の合理化』研究座談会

塩原将行

(解題)

「教育の合理化」研究座談会開催の経緯

教育週報社が発行している教育新聞『教育週報』については、大空社より復刻版が中野光の監修のもと出版されており、別巻には、詳細な解説及び主要記事総目次、連載記事総目次、人名索引が収められている。この解説に従えば、『教育週報』の発行部数は、3000から4000部で、販売ルートを通さない直接郵送方式をとっていた。読者の募集として、何周年何百号といった記念号は、全国の学校3万校（時には1校3部ずつ8万部）に無料配布する方法もとられていたという⁽¹⁾。牧口の参加したこの「教育の合理化」研究座談会は、第300号記念の企画であり、全国の学校に無料配布が行われたものと考えられる。

この座談会が、1面の『創価教育学体系』の広告及び8面の『創価教育学体系』の書評との連動を考へても、また、座談会のテーマや柱となっている項目を考へても、牧口の『創価教育学体系』出版を応援していきたいという編集部側の意図がくみ取ることができる。このような牧口に対する好意的なスタンスは、別巻解説の中にある次の『教育週報』の特徴と関連があるように思われる。

紙面の特徴は、およそ5つに分けることができよう。第1に、教育者擁護の基本的立場が明確であること、それゆえに文部省の教育政策に対してはたえず批判的に注目していること、第2に、新教育運動や義務教育年限延長運動などの教育運動擁護の立場に立っていること、第3に、社会的弱者の擁護に立っていること、(以下略)⁽²⁾

一小学校長にすぎない牧口が、現場の立場からの教育学の樹立を目指し、全12巻の創価教育学体系の出版と創価教育学会の活動に対し、為藤五郎はじめ『教育週報』は、熱いエールを送っているように思われる。しかし、創価教育学会の活動に宗教色が濃くなっていく昭和11年以降は、

(1) 『教育週報 別巻』大空社 昭和61年、365-366頁。

(2) 同上、366頁。

『教育週報』紙上には、同会の記事が見当たらなくなってくる。

次に教育週報社がどのようにして牧口と『創価教育学体系』を知ったかであるが、戸田城外著の『推理式指導算術』の広告掲載があることから、戸田と週報編集部との接点があったことはまちがいない。同書は、創価教育学大系の著者として牧口常三郎が序を書いている。

また、前年の昭和4年にモナスから出版された教育週報社著『明治大正教育教授物語』で牧口の『人生地理学』について、地人相関の発見の項に1頁半を割いて、「かの地理の篤学的研究を以て知られた教育実家の牧口常三郎が突如として、真に突如として『人生地理学』なる一千頁余の大著を、我教育界に投げつけた。而もその弾丸は割合に強烈で、当時一個無名の実際家が、かくの如き爆弾を餞けたことは、珍とするに足る痛快事であつた」と紹介している⁽⁴⁾。この牧口と指導算術の序を書いた牧口がつながったことが、牧口の論文「教育学の科学体系に於ける位置」の掲載(280号)、そして、300号記念の「教育の合理化」研究座談会の企画への糸口となったと推測する。

「教育の合理化」研究座談会における牧口の主張

研究座談会において、牧口が強く主張しているのは、無理解な行政官の監督についてと小学校長登用制度論、そして、半日学校制度論である。また、これらは、牧口が準備を進めている『体系・第3巻』の内容でもある。また、後に「教育研究雑誌 小学校」(昭和8年6月号)において、戸田城外がインタビューに応じて答えている内容にも重なる⁽⁵⁾。

その中でも、特に今回の座談内の内容で目を引いたのは、「半日学校制度」についてである。座談会参加者の考える同制度には、単に生涯学習の先駆的な考えではなく、次のやり取りにあるように資本主義か社会主義かというような次元を超えた人間主義とでも言って良いような発想を内在しているからである。

野口 僕の考へでは、労働時間を成るべく少くして教育を多く受けさせるやうにしたら、資本主義でもいゝと思ふ。

赤井 さうなればもうそれは資本主義を越えた問題ですよ。

牧口は、若いころから折にふれて、半日学校制度を提唱し、1905(明治38)年には自らその実践のために大日本高等女学会を創立、その経営にあたってきた。そのような牧口の心にあつたものは、単に生涯学習や教育の機会均等のための「半日学校制度」ではなく、人間(庶民)が、社会全体のための一歯車にすぎない存在から、ひとりひとりの人間の幸福のための社会実現への方途として、「半日学校制度」を考えていたのではないかと、この野口援太郎と赤井米吉との対話から考えさせられた。

(4) 82-83頁。

(5) 「教育研究雑誌 小学校」昭和8年6月号 教育学術研究会、84-87頁

『教育週報』掲載の牧口常三郎関連記事

最後に、『教育週報』に掲載された牧口常三郎関連の記事を列記する。

1. 広告『推理式指導算術』戸田城外著 昭和5年7月5日 第268号7面
「突如として帝都に現はれた創価教育学説の立場から著者十数年の研究を発表したものであります」とあり、教育週報に、創価教育学の文字が出てくる最初の資料である。発行所 創価教育学支援会、販売所 城文堂となっている。『推理式指導算術』の初版が、昭和5年6月25日で、第2版が同年8月23日であるから、まだ未見の同書初版についての書誌情報といえる。
2. 学術論文「教育学の科学体系に於ける位置」牧口常三郎著 昭和5年9月27日 第280号4面
『牧口常三郎全集』未収録の論文。次号で、翻刻し紹介したいと考える。
3. 記事「一小学校長の偉業 三十年がかりで教育学書十二巻 牧口常三郎氏没頭の『創価教育学』出づ」 昭和6年1月17日 第296号7面
この記事は、昭和6年2月1日発行の『創価教育学体系』第2巻巻末に『改造』、『東京ニュース』の書評とともに収録されている。
4. 投稿「嫌な感じのした『一』の字 牧口氏の著述に関して」 御法ヶ丘五十彦著 昭和6年2月7日 第299号8面
これは、1月17日の記事の「一校長」という表現は侮蔑されたような感じがするとして、御法ヶ丘五十彦が投稿したものである。『人生地理学』に続き「創価教育学体系も一大センセーショナルを投げられることと思う」と高く評価している。御法ヶ丘五十彦はペンネームと思われる。実在する人物は見つからない。「断つて置くが余は牧口氏に頼まれてこんなことを書いたのではない。尤も氏とは知り合ひではあるが、大に肩を持つてやろうといふ程の親交さでもない。」と述べていることから、逆に牧口先生の周辺の人物かとも思われる。また、『教育週報』を購読してる立場にあることから、教育関係者かもしれない。ペンネームの「御法ヶ丘」と「我が牧口氏の如きは(中略)日蓮にも比すべき初等教育界の大先覚」と記していることから、牧口と同信の人間とも推測できる。「約三十年前人生地理学を著作刊行せられ洛陽の紙価を高からしめた篤学の士である」との表現は、昭和5年11月20日に発行された『環境』第1巻第9号17頁の東山子「牧口氏の人格と其の研究」の中の「洛陽の紙価を高からしめ」に似ている。戸田城外の可能性も考えられるが、断定はできない。
5. 広告『創価教育学体系』一、二巻 昭和6年2月14日 第300号1面
『教育合理化』の経典！ 教育学の蘇生!! 甦生! という活字が大きく目立つ。4面以下の座談会の「教育の合理化」と連携していると思われる。

6. 書評『創価教育学体系』 昭和6年2月14日 第300号8面
1面の広告と2週連続の座談会、そして、この書評と連動して記事が作られている。

7. 人物の片影 (303)「創価教育学の東京市白金小学校長 牧口常三郎君」

昭和6年3月7日 第303号4面

大学・高等師範教授をはじめ幅広い分野から登場。小学校教員の登場はまれである。紹介の中に牧口先生の人物が彷彿とする次のようなエピソードが挿入されている。

- ・君は札幌師範の出身で、卒業後直に母校訓導に抜擢され、その独創的な教授法は『牧口の教授法』として全道に響き亘った。
- ・本校の助教諭としての君の教授も一頭地を抜いていた。地理科の如き巧みに時事を捉へ、豊富なる材料を用意して活きたる指導を行った。ために生徒は地理の時間を待ち焦がれる、といふ有様であった。
- ・その後、高等女学講義録の出版を思ひ立ったが、これは失敗に了った。営利心を容れる余地のない頭脳の持主たる君には、不向の事業であったと見える。
- ・君はよく後進の長所を認めて之を引上げる。従って後進もその情誼に感じて君に尽くす事を忘れぬ。『創価教育学支援会』の如きその現れの一つである。

この内容に、「初等教育界の現役を去つた君は、創価教育学の完成に精力を注いでゐる傍ら、雑誌「新教」を主宰して、その伸展を期しつゝある」の一文を付して、昭和11年に文化書房から発行された為藤五郎編『現代教育家評伝』に収録されている⁽³⁾。

8. 書評「牧口常三郎氏の創価教育学体系 (第二巻)」為藤十郎著

昭和6年4月25日 第310号4面

9. 記事「創価教育学研究会 二十六日より三日間」 昭和6年12月26日 第345号7面

12月26日より3日間、麻布新堀小学校で開催される冬期研究会を紹介。研究題目は「教育原理としての価値論」で午前牧口先生が講演、午後討論会。

10. 新刊紹介「教授の統合中心としての郷土科研究」 昭和8年7月8日 第425号1面

『教授の統合としての郷土科研究』は、大正元年に目黒書店から出版され、第7版で絶版になった後、大正12年の関東大震災前に宝学館・二松堂から改訂8版が出版された。しかし、版が灰塵となったためか再版されていないようである。この郷土科研究を戸田城外が城文堂より出版した。

11. 教育関係近刊書『推理式読方指導 模範解答附 第五学年用』及び『推理式読方指導 模範解答附 第六学年用』 戸田城外・山田高正著 昭和8年11月4日 第442号8面

⁽³⁾ 251-252頁。

12. 寄贈図書『創価教育学体系』第3巻 昭和9年8月11日 第482号1面
『体系・第3巻』の内容を簡単に紹介。
13. 人物の片影(516)「徹底的独学 前田偉男君(東京少年審判所審判官)」の中で触れる 昭和10年4月6日 第516号4面
前田が大正小学校で牧口先生の片腕として働きながら大正10年頃高文をパスしたと紹介。
14. 記事「創価教育講演会」 昭和10年4月27日 第519号11面
4月30日、5月4日、5月7日の講演会を予告。30日は、牧口常三郎が、「創価教育学組織概観」
「応用科学としての教育学」と題して講演。終わって、創価教育学についての質問会の予定とある。
15. 消息「創価教育学会」 昭和10年5月4日 第520号11面
5月4日、5月7日の講演会を予告。牧口は、4日に「教育原理としての価値論」、7日は「教育改造論」と題して講演。
16. 消息「創価教育学会」 昭和10年5月11日 第521号7面
5月7日の「教育改造論」と題した講演会開催を紹介。
17. 消息「創価教育学会」 昭和10年5月25日 第523号11面
5月26日に大森『見晴』で研究部総会を行うことを紹介。
18. 消息「創価教育学会」 昭和10年6月22日 第527号9面
創価教育学原理としての法華経講話会を堀米泰栄氏を講師として、6月26、27日に牧口宅、7月2、3、4日に歓喜寮で行うことを紹介。
19. 消息「創価教育学会」 昭和10年7月27日 第532号7面
7月25日に研究部総会を行い、秋月左都夫、古島一雄氏が講演したことを紹介。
20. 消息「創価教育学会」 昭和10年9月7日 第538号7面
9月10日に研究会を開催することを紹介。「ハイデッカーに就て」佐々木勝衛、「今の読方教育を評す」吉田義則、「教育法の五重相対階級論」牧口常三郎
21. 再訂日本教育家録(43)で牧口のプロフィールを紹介 昭和12年7月31日 第637号6面

(本文)「教育の合理化」研究座談会

資料凡例

- 一、原文は縦書きであるが、それを横書きに直した。また、横書きで右から書かれているものは左書きにした。
- 二、本文の表記により記載したが、旧字体で記載できない漢字については新字体に改めた。
- 三、複数字分の繰り返しを示すおどり字は、>>、或いは>>>と字数分表記した。
- 四、誤字、誤植、脱字、誤記と考えられる個所には「ママ」と表記した。
- 五、判読できない文字は、■と表記した。
- 六、行変えのため、やむをえず「。」や「、」を略していると思われる個所には、「。」や「、」を加えた。
- 七、昭和六年二月廿一日付4面の「座談会出席者」は二月十四日と同じなので略した。

なお、この翻刻は国立教育政策研究所教育図書館所蔵の「教育週報」を底本として、北川洋子および学生との共同作業で作成することができた。感謝を込めて、付記させていただく。

「教育の合理化」研究座談会

七日夜教育會館に於て

<『教育週報』第300号 昭和六年二月十四日 四面、五面>

座談會出席者

(五十音順)

◇明星學園長	赤井米吉
◇京都府師範學校長	川面松衛
◇東京女高師高女主事	北澤種一
◇城西學園中學校長	野口援太郎
兒童の村小學校長	
◇早稲田大學教授	原田實
◇東京白金小學校長	牧口常三郎
<hr/>	
◇教育週報社	爲藤五郎
◇同	爲藤十郎
◇同	池田種生

爲藤 これからお願しますが、**教育の合理化**といふ事に就て誤解があるやうです。それは産業の合理化といふ事と一緒に考へられて**産業の合業化**で多数の働くものを失業させるやうに、教育

の合理化といふのは何か教員を失業させる爲のやうに考へる人もある様に聞いたので一應それに就て申します。私のいふ合理化は、合理的に教育を立て直すといふ事で、分り易くいへば都市計画のやうなものだと思ひます。だしぬけに都市を作る場合には碁盤目のやうに作るでせうが、追々に發達して來た都市は色々こみ入つてゐて、それを順次に改造して行く。日本の教育は大體から言つてだんゝゝに發達して來たもので合理的に整理しなくてはならぬ。無秩序になつてゐるものを都市計画をするやうに合理化せねばならぬと思ひます。そこで教育といふことを廣く分けて見ますと第一に教育の理想、次に教材、方法、それが制度化されて機關が出来てゐる。そこでその教育を何時やるかといふ時期の問題、經費の問題、教員の問題などがありはしないか。これ等に就て御意見を承りたいと思ひます。

◇合理化の概念

- 北澤 僕は合理化といふ概念を分析して見たい。
- 野口 教育の合理化は金の問題ではないだらう。
- 一同 勿論。
- 野口 金は要つても要らなくても合理化は出来る。今の産業合理化といふのは金をなるべく少く使つて収入を増さうと言ふのだし、教育の合理化は教育をよくする爲にする事と思ふが。
- 赤井 然し、そんな金のこともその中には含まれてゐる。
- 野口 それが含まれないこともないが、金をやすくするよりも・
- 北澤 だがそれも必要だよ。
- 爲藤 今のお話を聞いてみると産業の合理化と一緒になつてゐるらしいが、金の他に問題があると思ふが。
- 北澤 けれども教育の經濟化が同時に合理化の一面でもある。
- 野口 教育の合理化で金が少くなるのではなく、時には金が多く要る場合もある。
- 爲藤 それはですね。教育は大體消費であるから、教育の合理化には金が必要かも知れぬ。産業合理化はそれと反對に生産の事を考へるので、金のことを主にして考へると思ふ。
- 赤井 消費の分量を少しにするといふ點は考へられぬかね。
- 爲藤 では教育は經濟か。
- 原田 要するに現在の教育が色々な傳統や因襲にさまたげられてゐるのを如何に合理的にするかといふ事が問題である。
- 牧口 つまり金よりもよいものがあれば、それを育てゝ……
- 爲藤 つまり主と副の違いではないか。
- 北澤 さうだ。
- 爲藤 その前に合理化の必要があるかないかといふ事から考へて見たい。
- 牧口 それは個性尊重といふ意味と合理化と背反しないか、自由教育とどんな風に調和するかといふ點も考へたいですが。
- 原田 合理化に就ては其原理を掴まなくてはならぬ。所がそれは中々困難な問題で、萬人が

大體的に一致してゐる點、それが假令根本的ではなくともその合理化を圖る。例へば中等教員の檢定試験なら今のやうに試験委員がやる事ではなくて、中學校長のやうなのがやるべきだといふことなども考へられる。

◇教育の理想

爲藤 教育の合理化が全體から必要といふ事になつたやうです。そこで教育の理想といふ事から考へて見たいと思ひます。

野口 理想の合理化かね。

原田 教育の合理化を圖る物指から考へる事だ。

赤井 そこでこの時代に於ける學校教育は何をねらふべきであるか。富國強兵か、それともオツシュパーンの質問したやうな點から考へるべきか。

……今までの教育——教育だけには限らないが、すべてが國家萬能で個人とか社會とかいふ點に缺けてゐないか。これまではあまりに國家主義であり過ぎはしなかつたか。個人といつても、それは個人の爲の個人でなく、社會の爲の個人であるがその方面に對する考への缺けてゐる事を痛切に感じる。

牧口 目的觀ですね。それに就て私も先に考へましたが、合理化そのものを考へて見る時、自由主義は形式を嫌ふ、個性尊重と矛盾して來る。(そこへ川面氏入り來る)

爲藤 今京都師範學校長の川面さんがお見えになりました。

川面 私が川面です。

北澤 牧口氏の説もよいが、爲藤君のを議題にして行かう。それに就て僕の意見は教育の理想を社會人の理想の方へ進めなくてはならぬ。今日の教育の郷土化、社會化などがそれを要求して來たものといへる。従來は夫がなかつた。それが中心思想をなさなかつた。たゞ唯一の國家といふ個人を離れた高い概念を持つて來て教育しようとした。具體的の人間を通して如何にして之を導くか、それを社會人としてどう教育するか、その考へが全然なかつた。現在ではまだ足りない。これはどうしても合理化する必要がある。

爲藤 今の日本では國家を無視してはならぬが、同時に社會は認められる。そこを知らない。

北澤 國家が社會を考へない。國法は社會によつて出来るもので國家に忠ならんとするならばよき社會人を作らねばならぬ。

野口 そんな風に考へてゐるかね。

牧口 私は北澤さんの意見に賛成です。

赤井 従來の教育の見方を考へたい。そんな風に國家といふ事を盛んにいふが、實は立身出世といふやうな個人主義が支配してゐたのではないか。

野口 僕もさう思ふ。すべてが利己的で、國家主義といふよりも利己主義である。社會の爲に協力するといふことは少かつた。

北澤 それは何も利己主義を標榜してゐたのではない。

赤井 さういつて實は個人主義であつた。

原田 今、これまでは國家といふ名で利己的だつたと言はれてゐるが、それに代るに社會を持つて來てよくなるだらうか。もつと具體的に考へたい。社會といふ言葉は具體的でない。今までの教育は原理が先きで演繹的だつた。今後の教育は歸納的でなければならぬ今迄のやうに原理を先にしないで事實から歸納して我々の生活を導くやうにしないでならぬ。つまりヒューマンイズムの行詰りが來た。今後はリアリズムで行かなくてはならぬ時である。

赤井 今の個人主義の背景は資本主義である。

北澤 誰も利己主義ばかりになつたといふ點を考へたい。

爲藤 資本主義なるが故に個人主義、個人主義なるが故に資本主義となるのであらう。

原田 もつと具體的に……

牧口 それは國家といふものが我々の生活と遠ざかつてゐるからで、社會といふ概念をもう少し實際的に個人を考へて行きたい。

川面 思想が歸納的になつてゐるからいけないのだ。動かさないものと考へて演繹的にやらねばならぬ。

北澤 しかし研究するには歸納的でなくては。

原田 教育は育てるのだから。

川面 日本の教育といふことを忘れてはならぬ。

赤井 國家主義が徹底しなかつたのは何故かを考へたい。

川面 徹底させねばならぬ。それには思想が演繹的でなくてはならぬ。歸納することが間違ひだ。

原田 さうぢやない。國家の内容を認識したから憲法が出來たので、その内容をよく知らせよく考へさせねばならぬ。知らぬものを育て、行くのに歸納が必要である先へ行つてしまつたとて大人は分るが、子供には分らぬ。

北澤 それが過去の教育の缺陷である。それで大いに安心してゐたが成人すると役に立たぬ。それが分つて來たのだ。

原田 結果からではなくて、原因から歸納するのでなくてはならぬ。

牧口 それは目的觀と方法觀との違ひで、國家觀念だけではないかね。それに方法觀として社會觀を入れなくてはならぬ。

川面 ある所まではどうしても演繹的で行つて、それから歸納的に行くべきだ。

原田 そりや違ふ。

北澤 空虚な國家觀念だけでなく具體的に示して行かなくてはならないと思ふ。

爲藤 それで少數の偉い人間を作るのが目的ではなくて、國家のやる教育は凡人を作るといふのが目的ではないか。凡人を作るといふのではなく、凡人の爲の教育、それが必要だ。國家に必要なのは少數の偉い人ばかりではない。それで私はこれを凡人主義の教育といつてゐる。

北澤 凡人主義は少し語弊があるね。

川面 青少年の教育をするには凡人主義ぢやいかぬ。

北澤 陸軍大將になる必要がない、そんなものを 靚 ぶ必要がないといふやうな事を言ふのは少し問題だね。

爲藤 大臣や大將になることをすゝめなくても、自然とその中から出来て来る。

北澤 小學校の教育では非凡人を作ることか矢張り必要だよ。

爲藤 反對々々

牧口 凡人に教育を均霑させる意味でせう。

北澤 それなら賛成だ。従来は少数者だつたから、矢張り多数にしかも非凡人になれといふことが大切だ。だつて、えらい人になる必要がないなんて…(議論、沸騰、筆記することを得ず)

爲藤 一寸々々、一寸待つて下さい。凡人といふ言葉は凡クラといふ意味ではない。多数の民衆の意味である。非凡人をおさへて教育するといふるのではない。

北澤 イギリスの教育は支配階級を作る事にある。

爲藤 それは大反對だ。

北澤 それでイギリスでは合理的であつた。

野口 今はさうでもない。

原田 國家の内容、社會の内容を見れば、決して少数の人間では出来ぬ。それ等の人間が七分だ。それが駄目なら社會は駄目だ。下からはつきりした考へに導かねばならぬ。

北澤 リーダーシップがなくては駄目だ。

爲藤 基礎工事をやればそれが出来る。

北澤 いやさうではない。我々は國家社會のリーダーとなる人間を作らねばならぬ。

爲藤 それでは支配者まで教育で出来るか。

北澤 さう。

爲藤 それは己惚れた。支配者を作る以上の力を教育が持つてゐるとは思へない。

北澤 それは出来る。それ位の自信がなくてはならぬ。平凡化することはどうしてもいかに。

爲藤 さうぢやない。大分誤解があるやうだ。非凡を標準にしないでである。

北澤 だが凡人になれといふやうなことを如何にも新しいやうに思ふのは大變な誤りである。

川面 それはどういふことを目的とするのだ。

爲藤 煉瓦の一つ々々を作ること目標として、非凡人を目標とはしないのである。

北澤 非凡人になるやうなものを目的としなくてはならぬ。

爲藤 でも例へば大きな實業家などは多く教育を受けてゐないがあれはどうだ。

北澤 それで作業主義が必要なのである。

爲藤 それほど教育萬能と考へられない。少くとも、私自身は、

北澤 これからの學校はさうぢやないよ、君、昔と違ふから。これからは非凡人を教育することを目標にする様なつてゐるのだよ。

野口 學校で非凡人を作らうといつてもそれは出来ないよ。

川面 目的をレフアインして行くのだらう。

赤井 それなら問題はないのだが……

野口 手段しゆだんとしてなら。

赤井 さう 手段しゆだんなら認めみとめる。

爲藤 そんなに多くおほ支配者しはいしやはいらぬ。

野口 リーダーひつえうは必要だよ。

原田 少くともすくな小學校時代せうがくかう じだいからはそんな必要ひつえうはあるまいな。

赤井 下したからマネージャーマネージャーして行くゆことが大たい切きつだ。

北澤 少すこし具體的ぐたいてきにいへば、今いまの政治家せいぢ かいはどうだ。

原田 皆みなが支配者しはいしやと思つてゐるだらう。

赤井 あれが根本的こんぽんてきに誤あやまつてゐるから、あんな人間にんげんが出来できるのだ

北澤 さうもいへるが、眞しんのリーダーリーダーがないからだともいへる。

川面 皆みながリーダーリーダーになれないからといふのか。

野口 さうぢやない、一般はんからリーダーリーダーがで出くて來るといふのだらう。

川面 皆みな、リーダーリーダーを作るつく位くらゐの覺悟かくごでなくてはならぬ。

爲藤 そりあいかん、それこそ『一將功成しやうこう せいつて萬骨枯ばんこつ かくる』で、それはいけない。

原田 つまりかうだらう、人じん間の體(ママ) けん からだに細胞さいぼうが必要ひつえうなやうに、そんなものゝ教育けういくが國家こく かくとして大事だいじだといふことになるのだらう。

赤井 連帶れんおび (ママ) くわんねん 觀念ひつえうの必要ひつえうだね。

(筆記者交替)

爲藤 教育の理想といふ問題は大變大きい問題で、まだ論ずべき事は澤山あるだらうと思ひますがこれ位にして、次には教材に就てお願ひませう。

◇教材に就て

原田 問題もんだいがまだ澤山たくさんあるやうだから、總體的そうたいてきに大切な問題たいせつ もんだいを捉とらへて論ずるやうにしたらどうだらう。

北澤 いや、やはり一つ一つやつて行つたがいゝぢやないか。

牧口 従來は社會意識を喚起するための教材が閑却されて居たやうに思ひます。たゞ或る原理から演繹して行くだけで、社會の事實から歸納されて居ない社會と國家といふ言葉の使ひわけの如きもはつきりしてゐない様です。社會といふのは世の中の事だといふ様に極めて曖昧な概念しか持つて居ない。小さい處では家庭も一つの社會であつて、その外に各種の大小の社會があるが、現在では主權、領土、人民の三要素を備へて居る國家を以て最も完全な社會と見るべきであらうと思ひます。社會を教ふるために公民科などを喧しく言つて居ますが、社會を教ふるための組織が出来なければ駄目だと思ひます。

北澤 従來の教材じゆらい ざいは演繹えん てき的といふよりはむしろ天降あまくだり的てきであつたといひたいね。例へば大學で教をしへる物理學の組織ぶつりがく そしきを少すこし薄うすめて中學ちゆうがくに教をしへる。それをまた少すこしやさしくして小學せうがくに教をしへるといつたやうに、その間あひだに難易なんいの差さがあるだけで組織そしきはちつとも變かはらない。兒童じどうに對してはその興味きようみといふことを考慮かうりよに入れなければならぬ。

野口 僕の考では教材の合理化すべき點が二つある。一つは従來のものは兒童に解らないやうな不適當なものを、大人が必要だといふことで強いて居る點で、兒童は了解しなければ興味も起さない。今一つは北澤君の言つた様に教材はすべて兒童の興味を起すものでなければならぬ。そのためには實際に適合する様にすればよい。従來のはあまりに學術的になり過ぎて居る。この原因は學者に教授要目や教科書を作らせるからであらうと思ふ。社會の實際と子供の實際とに思ひを及ぼして教材を選択しなければいけぬ。この二つが教材上の不合理だと思ふ。

北澤 それで僕は言ふが、大學のシステムが少し形を變へて小學に下つて來たからいけないのだ。教材の選擇には兒童の價値判斷を考へねばならぬ。それには興味が必要になつて來るのだ。米國では歴史、地理、法制、經濟等は打つて一丸として社會科學として授けてゐる。日本では社會科學など言つたらそれこそ危険なものとして睨まれるが(一同大笑)……物理、化學、動植物等はゼネラルサイエンスとして綜合的に授けて居る。それで兒童も興味を以て學習する。文部省でも中學の理科だけはやつと綜合的にやるやうになつたやうだが。

野口 あの時、あれでも大變な問題だつたよ。

赤井 従來は何か説の殖える毎に學科が殖えて行つた。それがいけないと思ふ。修身と公民と二つ對立させるが如き。

野口 吾々は修身と公民と一つでよいと主張したが、それではいかんといふものがあつてたうとう二つに分けて了つた。

赤井 今日の普通教育は百科辭典式だね。

爲藤 今までのお話も結構ですが、ずつと具體的にして教材の整理すべきものはないでせうか。例へば數學の或部分の如き形式的陶冶といふ上から必要が多少あるかも知れないが、實際上殆ど用が無く整理さるべきものはないでせうか。また語學の如き必要は必要でも整理すべき點はないでせうか。

野口 あるとも。數學の如きには澤山ある。微分とか積分とか何とかね色々あるよ。また算術の鶴龜算とかいふ謎の様なものがね。

赤井 あるある。切符を賣つてどうかする問題があるね。

原田 國定教科書をもう少し充實したものとしてこれは参考用とし、教師はその市町村の材料を集めて之を主な教材として教育して行くといふのが合理的ではないかね。教育の原始時代に於ては教材を上の方から作つて與へるといふことが止むを得ないことであつただらうが、もう日本の教育も相當の年月を経て大分解つて來たから教師自身の考へでやらせてもよい時分だと思はれるが……。學校で米の事を習つて自分の食つて居る米の値段は知らぬといふやうな教育はもう宜い加減に止めなければならぬ。國定教科書のやうな全國劃一的のものは参考用としてその土地の教材を主教材とするやうに位置を轉倒しなければいけないと思ふ。

爲藤 牧口さんの書物を所々讀んだが、今の原田君の意見のやうな事が書いてあつたやうです。日本では教科書はすべて上から作つて時間までも決めてあるので、教師は丁度レコードをやるか放送するやうな鹽梅だがこれを教師を主にしてその創造力を發揮させる様にしなければ

原田 村の掲示板を見ても材料は相當にある。

北澤 さうだよ。

川面 教育はそんなもんぢやない。現在社會の色々な事實を教へただけではいけん。それを理解する基礎になるものを與へて置かなければ……。たゞ社會の事實を教へても興味は起るものではない。

原田 その基礎を社會の事實によつて與へるのですよ。例へば蜜柑は甘いものだと言葉だけで教へないで、蜜柑を食はしてやるのですよ。

川面 蜜柑の味はどの兒童も知つて居る。それはずつと前に溯つた話である。社會の事實を理解するにはやはりそれ相當の基礎になる知識が必要だから、これは理論として教へて置かねばならぬ。

赤井 その基礎が事實だ。

(この間理論と事實との問題で論議が混線した。)

野口 教材のことはこれ位でもうよいぢやないか。

◇ 方法に就て

爲藤 今度は方法についてお願いします。

牧口 技術的方法から見れば經濟問題が加味されますね。教師から言へば教育力の經濟、兒童から言へば學習力の經濟、それから費用を有効に使うこと、言葉の經濟等研究すべき問題は少くない様です。今までは教授法のための教授法を行つてみたので無駄が多かつた。これは方法上の研究が足りないからであると思ひます。教師の技術ほど次のものに傳はらぬものはないと思ひます。義太夫とか踊りとかあゝした藝術上の技術はよく後に傳はりますが。

(以下次號)

<『教育週報』第301号 昭和六年二月廿一日 四面>

(前號の續き)

北澤 方法の合理化について日本を土臺として考へて見ると日本ほど合理化されて居ない國はないやうだね。それは科學的でないからだ。日本の研究は哲學的に過ぎて居るので、兒童の周圍から材料を取ることが出来ない。茲に教育科學の研究の必要があるやうに思ふ。米國や獨逸などの科學的態度に學ばなければならない。

爲藤 その科學化が即ち合理化ですね。合理化といふとこの頃叫ばれて居る産業合理化と同じものであるかのやうに誤られ易いですが……。

一同 さうだゝゝ。我國の教育研究は科學化されて居ない。

野口 ウオシユバーンの來た時に、米國ではあの問題を科學的に實驗的に研究して、これによつて教科課程とか方法とかを決める事に努めた居ると言つてみた。しかし、これは或る程度までは必要で——日本では殊に——あるが、これを過重することがいゝか悪いかは疑問である。

赤井 それは方法上の問題で、米国のやうに、科學的實驗的研究の結果を數量的に測ることに重きを置くのがどうかと言ふのではないですか。

野口 科學的研究は必要であるがそれだけではどうかと思ふのである。十年二十年教育に携つて來たが方法上の効果が擧らぬといふのはどんなものか。數量的の結果よりもその永い間の經驗が重いのではないかと思ふ。それから北澤君は、日本の研究は哲學的に過ぎてはいけなと言つたが、それよりもむしろ紹介的の弊が多いのではないか。

原田 それは少數ではないですか。紹介者自身だけではないですか。

赤井 日本には眞の教育研究所といふものがないのぢやないか。

爲藤 岡田さんはかういつてみた。公立學校ではあまり試驗的研究をしてはいけん。私立學校をモルモツトの様に材料にして實驗するやうにやればいゝと。

(ハ、ハ、ハ、『モルモツトか』と誰かが笑ふ。)

野口 僕もさう思ふ。公立學校では仲々出来るものではない。しかし私立學校でもモルモツトに對する様な態度でなく、眞剣な態度でやればいゝ。

◇ 制度の問題

爲藤 こんどは制度についてお願いしますが。

野口 これには澤山ある。

赤井 先づ小學、中學、大學といふ系統を正系に、他を傍系とする考へから脱け出なければ……。

原田 それから教師の自由尊重の問題もある。

北澤 教育の機會均等も……。

爲藤 今の教育系統は將棋の駒のやうで、飛車は飛車、角は角、桂は桂と行くべき道は夫々決つてみてそれ以外の道は通れない。

赤井 さうだ。全くさうだ。

爲藤 初等、中等、高等の教員の間にも防火壁が築いてあつて自由に交通することが出来ない。あまりに制度化されすぎてゐる。

牧口 私は制度上大きな問題たる半日制度の學校を提唱したい。今教育の實業化等を行つて實業學校をも獎勵して居ますがあれでも卒業生が多くなり過ぎたらやはり就職難に困つて來ますね。半日は職業に従事し、半日は教育を受けるといふことにすれば教育年限は思ひ切つて長くしてもいゝと思ひます。

爲藤 野口さんの學校で四月からそれを實現しますよ。

野口 それは僕の十何年か前からの意見であるが、高等小學校は八年にして半日にせよといふのである。一體働くといふことは教育である。ケルシエンシュタイナーのあの原理はいゝ。教育は生涯——といへばあまり長すぎるかも知れぬが——やるがいゝ。それは實際生活と結びつけてやるべきで、今の補習教育、成人教育等が本系になるべきものである。今の學校教育の如きは一時に食ひ溜をすると同じもので、これは害が多い。

赤井 半日學校もいゝが、そこに行けば社會組織に關係する問題で、雇入れたものを半日休ませるといふことが雇主の方に承認されるかどうか。

野口 それだけ賃金を安く雇入れゝばいゝ譯だ。

赤井 それでは雇はれる方が食はれないといふことになる。

北澤 それは制度の改革をして何歳までのものを雇入れる時には賃金は普通に拂つて、半日は教育を受けさせる義務があるといふことにしておけばいゝ。

赤井 半日でも賃金は普通といふことになればいゝが、その實現はどうだらう。

北澤 知識技能が進んで来れば仕事の方の能率も従つて上つて来るから雇主の方でも損失はないではないか。

赤井 さうぢやない。今日のやうな分業組織では、どの仕事にでも代つてやるといふ譯には行かぬから、知能の進歩は大した足にはならぬ。

爲藤 フォードの様な考へでは一日働かせて一圓支拂ふよりも半日働かせて五十錢支拂ふ方が、仕事の能率を上げる上からは有利ではないでせうか。

赤井 さうだね。

野口 僕は資本主義は否定しない。従來の資本主義の弊を除けばいゝ。フォードの新資本主義のやうに……。

赤井 やはり資本主義ですよ。

北澤 野口、牧口兩氏の説の半日學校、は半日はどうするのです。

數名 内で働くのだ。

野口 僕の考へでは、労働時間を成るべく少くして教育を多く受けさせるやうにしたら、資本主義でもいゝと思ふ。

赤井 さうなればもうそれは資本主義を超えた問題ですよ。

野口 資本主義といふのを資本家本位と解しなくてもいゝ、資本の蓄積を合理化すればいゝぢやないか。獨占せねばいゝだらう。

赤井 蓄積すること、それが資本主義だ。

爲藤 野口さんは獨占せねばいいといふが、獨占しなかつたらもう資本主義ではないですよ労働者にも合理的に配當するならば。

野口 悉く分けて了ふといふのではない。

(こゝで兩者の論議紛々)

原田 卒業生の特權廢止も重大問題ですね。

野口 急に特權を廢止しなくてもいゝよ。社會が段々變つて来てその必要がなくなれば自然に特權はなくなつて来る。どんゝゝ作つたらいい。博士でも何でも。さうしたら終にはそれが特權の用をなさなくなるやうになる。

原田 然し今日の狀態から見れば、まだ借金しても高等の學校を出て特權を得た方が有利な地位を得易いと思つて居るものが多い事實がまたさうであらう。

牧口 私は小學から大學までを半日制度にしたがいゝと思ひます。國民の八割位は農民だか

はんにち いへ おも
ら半日は家において家業を手傳はせるやうにしたがよいと思ひます。

野口 のうみん すう じつさい わりくらみ
野口 農民の数は實際五割位になつてゐますよ。

爲藤 従來は學校を社會から餘りに隔離し過ぎて來たし、また學校を偶像視し過ぎて來た様に思ひます。學校を生活の中に溶かし込むことが必要ではないでせうか。

牧口 はんにちがくかう じつれい かさがかくかう み こと で き がくかう こうぢやう いらんさつ
牧口 半日學校の實例は三笠學校に見る事が出來ますね。あの學校ではシャボン工場とか印刷工場とかその他色々な仕事に従事し乍ら半日の教育を受けるのですが、一日七八十錢位の賃金を取つて徴兵検査の頃には獨立した職工になりまた種々な職業を始めたものです。

野口 少し違ふが、米國に大學生の多いのは、彼國では労働を高く買つてくれるので一日四五時間も労働すれば學費が出来るからである。或る者はコソクをして立派な家庭を持つて主人と同じ食事をして三十ドルも取つて居るが、あの高い生活をして教育を受けてゐる。

爲藤 それでは少し進行しませう。残つてゐるものは經費と教員の問題ですが、これは最近公立學校で問題になつてゐる教員給減額問題などもありますので、それに就てもお話し願ひたく存じます。

◇ 教員の問題

野口 ぼくはこの頃労働者の給料や教員の給料や官吏の給料を減ずるといふがこれは他の方法で合理化して給料など引下ぐべきでない。それは生活の問題と關連してゐるが、もう少し労働者や教員、下給官吏に生活餘裕があるべきだと思ふ。故に教育の合理化によつて教員給を減ずることは絶対に反對である。

川面 教員の待遇を減ずることなく教育の合理化を圖るべきだ。

爲藤 それが眞の教育の合理化である。

野口 それに無理な仕事を要求してゐる。まるで瘦せ馬を鞭うつやうなものだ。それは却て合理化でない。教育の合理化には教員も増さなければならぬ。

爲藤 それで近頃起つてゐる問題で、働き盛りになると首にする。これが政治界だと尾崎、犬養などは年をとつても退かない。若し教員がそれ程衰へるとすれば重大な問題だ。何がさうさしたかといふ事を考へねばならぬ。

野口 それはただ衰へたからといふのではあるまい。

爲藤 尾崎、犬養は一例にすぎないが。

原田 事實年とつたものがゐないですか。

野口 先づゐないね。

原田 老人を残すばかりが合理化でもない。要は教員に自由を認めてもつと働かしめたがよい。

牧口 そこで問題は、我々教員を誰が見分けるかである。

野口 その點では僕は原田君と同意見である。もつと教員の實力を發揮せしめる必要がある。

川面 野口君などはそれだ。この年まで活躍し、そして大いに認められてゐるのは、その能力を十分發揮したからだよ矢張りよい能力を十分發揮させればのだね。野口君なども普通の

師範學校長だつたらさう續かなかつたかも知れん。

野口 さうでもあるまい。

爲藤 それもさうだが、教員は早く疲労しませんか。

野口 それもあるが、十分に活動させないから疲労するともいへる。

川面 發揮させるとすぐやられる

牧口 大體教員を無理解な行政官が取締ることが問題である。巡査は犯罪人でなければ取締らない。所が視學はそれ以上に進む場合がある。無用な機關が多い。教育の方法や内容にまで干渉して来る。

爲藤 更にそれは上へ持つて行つて中學、師範の校長は學務部長から監督される。教育者は何も持たない事になつてゐる。

赤井 併し下給官吏に比べてどんな風ですか。

牧口 それは醫者のやうなもので一つの技術者なのだから。

赤井 でも使用されてゐるのだから。

川面 しかし他の會社などより年齢は短い。鐘紡あたりでも最近は五十になると目をつけるさうだが、教員は五十にならぬ間に整理されてしまふ。

牧口 私は小學校長の登用試験が必要である。現在では何がよいのが見分けがつかない。

爲藤 それはしかし逆に考へて拘束を自ら作ることになりはしませんか。文字では現せない能力もあるでせう。

牧口 それは試験方法によるのですが。

爲藤 ではその試験を誰がやりますか。

牧口 試験委員を作ればよい。

爲藤 では學者的なものになりますね。それより私は寧ろ校長公選がよいと思ふが。

牧口 それもよいですね。校長の選出には矢張り保護者もやらせねばならぬ。

野口 さうなるとアメリカのがよい。その委員を公選にして、その委員が校長を選ぶ。すべてが合議制である。

爲藤 校長を二種おいて、一方を事務、一方を教育の内容といふ風に分けてやるのはどうです。

牧口 それでもどうして選擇するかゞ問題。今ではあり餘つて困る位である。首席なども年限によるが、校長になるものはごく少い研究したとて望みはない。そこで多く横にそれてしまふのである。

爲藤 中學校でもそれがあつた。

牧口 さうゝ。工場などでは熟練職工は誠首しない。所が學校ではよい教員でも時には首にしてしまふ。その見分け方が分らないからである。これでは技術者のよいのがなくなつてしまふ。行政官は行政上のことは分るが教員のことが分る筈がない。

野口 校長でなくてはよい待遇をしなくてはならぬのは間違ひである。折角博物の研究しておいて校長にもならぬのはいかぬ。

牧口 技術と行政が一致してゐないからである。

赤井 それは教員内に組合を作つて中から見分けるのがよい。

爲藤 教員の自治だね。

牧口 罷免などは自治でなくてはならぬ。

爲藤 甲と乙とが教育の上に現はれますかね。

牧口 現はれます。一番よく分るのが入學率などがそれです。此頃では父兄がよく教師の腕を知つてみますよ。師範で出来なかつたやうな教員は中々やれませぬ。

野口 そこで研究を重んじなくてはならぬ

牧口 教師は研究を標準にせねばならぬ。才で走るからカスばかり残る。

爲藤 そこで一寸一言、こんなに教員が充實して來たら訓導と代用だけでよいのではないかしら。

川面 それは經濟的な調和から必要ですぜ。

爲藤 これまでならよいが

川面 正教員が安く得られれば。

野口 少しやゝこしいな。それよりも訓導、教諭、教授などもなくした方がよくないか。

牧口 だから昔のやうな小刻みはいらない。

爲藤 それでは時間ですからこれ位で。どうも有難う御座いました。(終)